鷺照吟詠会 会報 第二十三号

発行
公益社団法人
関西吟詩文化協会
公認鷺照吟詠会

『一語一縁』
身近な人に声をかけて吟の輪を広げていきましょう！

会長　大取鷺照

出会いと別れの季節でもある春が巡ってまいりました。会員の皆様にはお元気で楽しく吟詠活動に励んでおられることとお慶び申し上げます。

今年は、新年早々能登地方で大地震が発生し、多くの方が被災されました。心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より祈念申し上げます。会としても義援金を集めて協力させていただきました。ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ五類に移行して十箇月。社会経済活動も活発になり、吟詠活動もほぼ通常通りにできるようになりました。これからは会を離れた仲間に、また身近な人に『一語一縁』声掛けをして、吟友の輪を広げてゆきたいと思います。目標は、一教室一名の増員です。本部も今年から新たに会員増員キャンペーンを実施します。頑張りましょう。

昨年は、ワールド・ベースボール・クラシック（ＷＢＣ）で日本代表が優勝し、元気をもらいました。また、岡山大学吟詩部師範の木谷睨秀先生が、全国指導者級吟士権者決定吟詩大会・吟士権の部において優勝されました。おめでとうございます。会始まって以来の快挙です。十七年間の岡山大学吟詩部での指導と、たゆみない練習の成果が実ったのでしょう。先生のこれから益々のご活躍を祈念致します。

そして、関西吟詩文化協会総本部九〇周年記念大会も、全国四地区で盛会裡に開催されました。岡山から七十二名が参加し大変好評でした。

今年も競吟大会、集い、常任理事会、吟詠研修会、初吟会など『仲良く、楽しく、健やかに』のスローガンのもと、積極的に諸行事を開催していきたいと思います。会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。

今年度は役員改選期にあたり、三月の総会で新役員が選出されました。新役員の先生方、会の発展のためご協力よろしくお願い致します。

来年は、本会創立七〇周年を迎えます。昭和三十年に故佐藤鷺照先生が岡山の地に初めて関西吟詩の教場を開設されてから七〇年。これから一年かけて準備をし、思い出に残る記念大会にしたいと思います。皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

令和六・七年度鷺照吟詠会役員

相談役	永井厳照（江陽）	
〃	鈴木睨照（梢雲）	
会長	大取鷺照（中山）	
副会長	内田菖照（皐月）	
〃	中山瞳伸（梢雲）	
〃	河田轟声（中山）	新
事務局長	内田菖照（皐月）	
次長	河田轟声（中山）	
理事	花房鴿笙（梢雲）	
〃	剣持憧照（総楽）	新
指導部長	内田菖照（皐月）	
理事	片山鷺丘（総楽）	
〃	大取鷺照（中山）	
〃	坂本綳照（岡南）	
〃	中山瞳伸（梢雲）	
〃	多田葦照（有朋）	
〃	石田燃照（有朋）	
〃	木谷睨秀（有朋）	
〃	内座慶玲（岡南）	
企画理事	中山瞳伸（梢雲）	
〃	池上醒照（中山）	
〃	石田燃照（有朋）	
〃	木南駿照（中山）	
〃	木谷睨秀（有朋）	
〃	鈴木厳翔（江陽）	
〃	窪田礎照（総楽）	
〃	川根渢照（江陽）	新
渉外理事	河田轟声（中山）	
〃	青木琥真（岡南）	
会報理事	木南駿照（中山）	
会計理事	鈴木厳翔（江陽）	
会計監事	新池亥照（吉照）	
〃	田辺通照（総楽）	
青年部長	木谷睨秀（有朋）	
青年部副部長	内座慶玲（岡南）	

吟士権の獲得で感じていること

岡山有朋支部　木谷　秀史

吟士権大会当日、予選が終了したので、さっさと帰宅しようとロビーに出た際、岡山から到着したばかりの内座由紀葉さんに出くわしました。自分の出番が終わったから帰岡する旨を伝えたところ、「先輩（中山理恵副会長）の吟を聴かないのですか。」と数回言われ、再度会場に戻ったところ、決勝に進出したことを知りました。この時に内座さんにお目にかかっていなかったらと振り返ると、感謝の念しかありません。

さて、決勝吟詠後の結果発表。何と優勝でした。結果発表を冷静に受け止めていましたが、一緒に出吟した鷺照吟詠会の同士や、同じ会場にいた岡山大学吟詩部の先輩（鷺伸吟詠会所属中村雅典さん）といった周りの方々が「大変なことになったぞ〜。」と騒ぎ、自分事のように

祝福してくださったことが印象的でした。詩吟を昭和六十二年から始めて三十七年たちましたが、振り返ると、周りの方々による温かい支えによって得られたタイトルだという思いをますます高めています。今年一月、初吟会にて祝勝会を催してくださり、吟士権タイトルの獲得という重みをしだいに感じています。今回の吟士権タイトルの獲得の意義について、現在、感じていることをまとめてみます。

一つ目の意義は、学生吟のモットーである『熱吟』『吟魂』を大切にしてきた岡山大学吟詩部の吟が全国で認められたことです。吟士権大会に出吟された方々による研ぎ澄まされた音回しや音程、表現力は誠にすばらしいもので、全国大会にふさわしいものでした。そういった中で、私自身がみなさんと同じような吟をしようとしても歯がたたないことを承知の上で、誰にも負けない迫力と流れを表現することに徹しました。迫力と流れは、私を詩吟の世界にいざなってくださった鈴木晄照師範をはじめとする諸先輩方の教えによるもので、岡山大学吟詩部時代から追求してきた表現方法です。今はマイクを通して吟を届けるのが当たり前なのですが、詩吟は本来、マイクに頼らずに思い切り声を出して己の魂を表現するものだと信じてきました。学生吟のモットーである『熱吟』『吟魂』が評価され、吟士権タイトルをいただくことができたことは意義深いことと思っています。

二つ目の意義は、鷺照吟詠会の名を全国に広げることができたことです。創始者である故佐藤鷺照先生が岡山の地で詩吟の種をまかれておよそ七〇年、吟士権のタイトルを初めて持ち帰ることができたのも、諸先輩方によるたゆまぬ努力と工夫の成果だと思っています。本会は創設以来、詩吟という表現の練磨とともに、漢詩の意味解釈を味わうという鑑賞の場を随所に設けてきました。表現と鑑賞を一体化させた、いわば車の両輪がうまく回るような活動を大切にしてきました。さらに老若男女、会員同士が和気あいあい、笑顔が絶えない雰囲気も大切にしてきました。そういった鷺照吟詠会の魅力を証明することができたのではないかと思っています。私自身、鷺照吟詠会の中で様々なことを経験させていただいていることが、吟力向上や本会の発展に寄与したいという気持ちを高めることができたと思っています。競吟においてそれなりの成績を残すには、詩や吟の知識や技能を極めることは言うまでもありませんが、それだけでは詩吟の楽しみは生まれず、成績上位にも入ることができないと思っています。「学生吟出身」「岡大吟詩部の顔」「岡山有朋支部代表」「鷺照吟詠会会員」という緊張感のあるプライド、会員同士が一緒に活動して生まれる仲間意識の二つが両輪となって、詩吟の楽しみと競吟における成績上位を生むのではないかと思っています。

最後に、「令和六年能登半島地震」が元日に起き、被災された方々の生活が早く戻ることを願って止みません。同時に日常生活の中で詩吟を当たり前のように楽しむことのできる喜びをかみしめながら、今後も謙虚に吟詠活動をしていきたいと思っています。

未来につなぐ和の心

岡山梢雲支部　中山　瞳伸

去る十月二十九日、本会創立九〇周年記念全国吟道大会・関西地区大会が、尼崎市総合文化センター（アルカイックホール）にて、盛会のうちに開催されました。

一八〇〇名収容の大ホールはほぼ満席となる予定で、席は指定となりました。岡山地区連合会（鷺照吟詠会と岡山鷺照会）からも七十二名が参加しました。

ここ数年のコロナ禍で、詩吟活動は制限され、会員も著しく減少しました。果たして従来通り周年大会が開催できるのか？危ぶまれましたが、本部執行部におかれましては予算を削減するなど工夫を凝らし、実現に漕ぎ着けて下さったことは、感謝に堪えません。

当日の様子などは、事前に配布された豪華なプログラムや『吟詩日本』二〇四号などに詳しく掲載されていますので、ここでは割愛致します。

舞台の感動を詳しくお伝えしたいのですが、当日私は司会係で、ほとんど舞台袖におりました。それでも青年部の詩吟も余技（民謡・踊り・三味線など）も素晴らしかったことや、自分は苦手な俳句朗詠を、指導部の先生方が楽々と朗詠される姿など印象に残りました。むろん、後の楠木正行を語った構成吟『ひとすじの道を』は圧倒的でした。詩吟は力強く、言葉が胸に刺さるようでしたし、ナレーターの表現力にも度肝を抜かれました。私が特に感動したのが、出演者全員による男女混声合吟です。男女の吟声が調和して、美しいなあと感じました。

もう一つお伝えしたいのは、地区吟詠についてです。テーマ『吟心百景』を聞いて、真っ先に思い浮かんだのが会祖・佐藤鷺照先生のことでした。八分という短い持ち時間ですので、鷺照先生を想起させる『思親』と『九月十日』さらに、先生が詠まれた和歌『支えられ』を選びました。木谷先生が思い出の写真を上手く取り入れて素敵なＤＶＤに仕上げてくれました。

先生が逝去されてもう四半世紀です。紆余曲折がありましたが、先生のカリスマ性と、創業から力強く先生を支えて来られた先輩方のご尽力が今の鷺照吟詠会につながっていると思います。

詩吟の未来への懸念は決して消えませんが、ひとつひとつ節目を刻んでいきたいと思います。

「集い」に寄せて

岡山岡南支部　坂本　朋義

○ひととせの　締めくくりこそ　尊けれ　吟の集いや　健やか家族

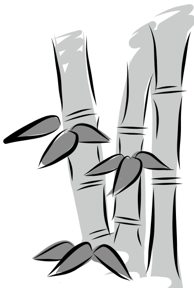
○各支部の　アイデア満載　なごやかに　吟の華咲く　老いも若きも

○大合吟　気高き賛歌　菊花には　凛としてなお　温かきものあり

私がこの会に入会して、四十七年になります。新型コロナウイルスもだいぶ収まり、令和五年度の鷺照吟詠会の集いは、十一月二十三日（木）午前十時に開会されました。岡山県労働福祉事業会館をお借りして、会長はじめ副会長、役員の方々、会員の皆様が楽しんで、盛大に開催できたことに感謝申し上げます。

支部別吟詠が始まり、それぞれ競吟とは違い、のびのび素晴らしい声を披露されました。特に私がいつも感動するのは構成吟です。岡南支部も以前は何回か発表したことがありますが、最近は構成吟をしていません。また、大正琴とのジョイント、書道吟、茶道吟などいろいろありました。

今後の念願は、岡山総楽支部のような歴史上の人物で挑戦したいと思っています。それにはみっちり時間をかけて練習を積み、頑張りたいと思います。今後とも集いに向けてご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



岡山大学吟詩部
創立六十五周年記念大会
「詩吟の種をまきなおす」

岡山大学吟詩部師範　木谷　晄秀

令和五年、岡山大学吟詩部は、昭和三十四年の創部から数えて六十五年目を迎え、十一月十二日(日)に発表大会を行いました。

当たり前のように開催した大会でしたが、振り返ってみると、創立六〇周年記念大会からの五

年の間には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全面活動停止ないしは一部しか認められなかったという苦境に陥ったことがありました。吟詩部は活動を通して人間陶冶を図ることを目標としていますが、活動が絶たれると、あっという間に伝統や詩吟追及のあり方が崩れ、失われることを感じた年月でもありました。感染症が世界的に流行している中であっても、大会だけは毎年絶やさず開催してきましたが、以前と同様の合宿や強化練習など、充実した活動を取り戻すことができたのは今年です。吟詩部の目標を達成するため、創部以来の伝統や詩吟追及のあり方を復活させ、以前に行われていた活動や大会プログラムの内容に戻すことが何よりも大切でした。吟詩部の伝統や詩吟追及のあり方を復活させるのは、植物を育てることにたとえると、土地を耕し、種をまきなおすことと同じことでした。

今年、吟詩部の伝統『礼節を重んじること』『高くて強く、押しの効いた吟』『熱吟』という種を一年かけてまきなおしてきました。今後、吟詩部の種が芽吹き、蔓を伸ばし、美しい花や熟した実ができることを切に願っています。

四年ぶりに開催された「初吟会」に初参加

岡山中山支部　大倉　時男

長かった新型コロナウイルスの流行でイベントの中止や飲食が制限されていましたが、我が会も少しずつ活動が自由になって来たと思います。そんな中、一月四日にピュアリティまきびで「初吟会」が四年ぶりに開催されました。大取会長はじめ各先生方、会員のみなさんの吟とともに、私も大学時代を思い出し、本宮三香の『吟詠』を吟じました。

また、昨年関西吟詩文化協会総本部の指導者級大会で優勝された木谷秀史さんの祝賀会では、初の快挙に会場が沸きました。懇親会ではカラオケのお手伝いをしていたのですが、『刃傷松の廊下』など、リクエストが多く、忙しい中にもとても楽しませていただくことができました。

私事ではありますが、暫く吟詠から遠ざかっておりましたが、昨年のＯＢ会で先輩から誘われ入会しました。練習でお腹から声を出すとスッキリします。皆さん熱心で良く教えて下さいます。

話しは変りますが、昨年十一月の「鷺照吟詠会の集い」では、他支部の方の吟も聞けて良い勉強になりました。私自身還暦を過ぎて、いろんな事に挑戦しようと思っています。

まだ入会して日にちが浅く、はなはだ僭越ですが、会の発展のための提案として、①ＳＮＳを活用した広報活動、②学校でのＰＲ、③他の文化団体とのコラボなどが少しずつでもできたらと思っています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

はじめてのチャリティーコンサート

岡山中山支部　本郷　勉

　令和六年二月四日、中山先生よりお声掛けをいただき、初めてチャリティーコンサートに参加させていただきました。今回のテーマは構成吟『天を敬い人を愛す　西郷隆盛』です。私の出場する場面は歌の部分で、一番を私が歌い、二番からは参加者全員で大合唱して終わると言う構成でした。

　岡山県生涯学習センターで、合計四回の合同練習があったのですが、一回目の練習はどうしても都合がつかず、二回目からの参加となりました。皆様、実力者の方々ばかりで間近で聞かせていただきますと、力強く壮大で西郷隆盛の偉大さも伝わってくるようで、大変感動しました。私ももっと練習し、皆様に迷惑のかからないようにという思いがますます強くなってきました。マイクの使い方や受け渡し、そして立ち位置等の指示を受けました。最後の練習は、本番を行う会場の西川アイプラザ大ホールで同様の練習、また最後の整列を再確認しました。

　本番当日、女性の皆さんは着物、私も着流しということで、少し早めに会場に行き、着付けをしてもらいました。やはり着物姿は華やかでとても良かったです。徐々に緊張が高まります。私は最初の音がとりにくい面があるので、外さないよう、直前まで常に音をとっていました。いよいよ私の出番です。舞台に立ち伴奏が始まり、歌い始めましたが、次の歌詞が消えてしまい、頭が真っ白になり…。「あっ!」と思いましたが、念のためにと歌詞カードを持っていたので、何とか最後まで歌い終え、その後も全員で大合唱して無事終えることができました。それまで順調に行っていた今回の構成ですが、私が思わぬミスをしてしまい、皆様には大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

　今回皆様の力強い吟を聞くにつけ、改めて「詩吟」の魅力を実感しました。このような発表の場に立たせていただいたことを深く感謝し、この初めての経験を忘れず、これからも日々努力を重ねていこうと思っております。本当にありがとうございました。

白さぎ吟詠の集い 競吟大会に参加して

岡山総楽支部　岡田　正和

　近年コンクールに出場する度に「声の伸びが悪くなった」「高音がしんどくなった」等の声の衰えに敏感になっていたところ、吟友からボイストレーニングなるものを聞き、トレーナーを紹介していただき、通勤時マイカーにて発声練習をしていました。このたびのコンクールには、その真価と決勝へ進出を目標に、吟題は慣れ親しんだ絶句と自分にとって表現しやすい律詩を選び出場しました。

　当日は午前四時に起床し、喉を起こし、午前七時に岡山駅に集合し、貸切バスにて現地の会場に午前九時着の予定で出発しました。バスの道中役員の先生の先導で発声練習と各自順番にマイクを持ち、本日の吟題を独吟させていただきました。この発表練習がコンクール出場の際の緊張や不安を取り除き、落ち着かせてくれました。そのため、会場での発声練習室には入らず、詩文を繰り返し復唱することを心がけました。

　決勝では、水分を補給し、精神集中、すぐに順番が回ってきました。マイクの前へ進み顎の下にしっかり位置取り…伴奏が流れる…しっかり声が響いて聞こえるぞ。よし!気持ちは高揚し、最後の二行は、大きな吟詠を心がけて無事終えましたが、その分「うるさい吟詠になったかな」と感じました。席に戻ると鷺照吟詠会の一団から「良かったよ」と、声掛けと拍手で迎えられほっとしました。

　今後は自分にとって「何が不足しているのか」という問題意識を持ち、上手な吟、きれいな吟、唸り上げる吟だけでなく、詩の情景が目に浮かび、時に強く、時に切なく作者の意図する詩情をしっかり語れるか等、凄い吟に挑戦したいですね。またコンクールへの出場機会を増やし、そのために生まれる緊張や不安を多く、自ら作り体感し、それが「楽しみ」になるよう我慢強く励みたいですね。

「第六十二回白さぎ吟詠の集い競吟大会」に参加して

岡山中山支部　河田　博行

　第一会場での伴奏責任者。これが大会係員としての小生の役割だった。セットした本数と曲番を確認し、出吟者の準備完了を見計らってコンダクターの前奏曲やプレイヤーの演奏開始ボタンを押す。吟詠が終わるとタイミング良く停止ボタンを押す。一見単純な作業に思われるが、責任重大で、神経が磨り減るような役だ。用意されている二台の機器も、初めての操作ではボタン配列や機能に慣れるまでが大変である。鷺照吟詠会では四年前から伴奏曲をデジタルデータとしてパソコンに取り込み、ワンクリックで演奏しているのに…などと思いながらも他の三人の係員と交代しながら役割を黙々とこなしていく。……そして、いよいよ最上級の部決勝吟詠を迎えた。

　今大会では、最上級の部決勝吟詠に残った六人中三名が鷺照吟詠会のメンバーという快挙！

　「三番岡田さん」。司会の案内に登場した吟者の準備完了のタイミングに合わせて（頑張れ、岡田！）と念じつつ、多少震える指先でボタンを押す。（律詩を五本で吟じ通すのか？…素晴らしい！気迫がビンビン伝わって来る！）『獄中作（頼鴨厓）』を見事吟じ終えた瞬間、会場に声にならないどよめきが聞こえた。

　「五番鈴木さん」。（頑張れ、鈴木さん！）伴奏スタート。これも鈴木さんらしい気合いのこもった力強い『大楠公』だった。

　そして、最後の吟者。「六番内座さん」のアナウンス。（頑張れ内座さん！）伴奏開始！（この半年くらいで透明感のある伸びやかで美しい声に力強さ・太さが加わり、また上のステージに上がられたな…）と、思わず聴き入ってしまう。聴衆を魅了する『一谷懐古』が終わると、一瞬の静寂さが会場を支配したように感じた。

　一位から三位までを鷺照吟詠会が独占するのでは？と審査結果発表を待つ。そして結果発表。

優　勝：岡田　正和
準優勝：内座　由紀葉
第四位：鈴木　一子
入　賞：剣持　和江
（敬称略）

といった素晴らしい成績だった。

　最上級の部だけでなく、女子合吟チームの優勝をはじめ、三段の部、上級の部、傘寿の部Ⅱでも見事な成績をおさめられ、“鷺照吟詠会ここにあり！”を示す記念すべき大会となった。出吟者全員の皆様に改めて感謝と敬意を表したい。

（成績詳細は別掲記事に）

岡山県連合会
競吟大会・吟詠研修会報告

岡山県連合会事務局　石田　隆

　令和五年度の関西吟詩文化協会岡山県連合会の競吟大会並びに岡山地区吟詠研修会を八月二十日に岡山県天神山文化プラザホールにて開催しました。新型コロナウイルスの状況も若干収まり、過去三年間に比べて少し対策も緩めつつ行った大会及び研修会でした。

　競吟大会には五十五名の参加がありました。昨年度からシニアの部（八〇歳以上）を加え実施しています。今年はシニアの部にはⅠ部Ⅱ部合わせて一〇名の参加でしたが、八〇才以上の方も是非積極的に競吟大会にご参加していただきたいと思います。

　各部ごとの参加者数は後述の通りです。特に最上級の部には十七名と多くの参加がありました。それだけレベルの高い大会とはなりましたが、若い方や経験年数の浅い方の参加がもっと増えればなあと思います。

各部ごとの参加者
○新人の部………一名
○初級の部………七名
○上級の部………九名
○師範代の部……四名
○準師範の部……五名
○和歌の部………六名
○シニアⅠ部……五名
○シニアⅡ部……五名
○吟士権の部…十七名

　ご参加いただいた会員の皆様には、本年度も熱の入ったレベルの高い吟で、素晴らしい練習の成果を発揮していただきました。ありがとうございました。

　吟詠研修会では総本部より新しく会長になられた古田哲壮先生、指導部長になられた藤本曙例先生、秀詠グループの今井彩黎先生にお来しいただきました。藤本先生には和歌新教本の『霞たつ』『東風吹かば』『白鳥は』の三題の講習をしていただきました。丁寧なご指導をいただき、和歌を吟じる時のコツが少しは理解できたような気持ちになりました。

　吟詠実技研修では、例年のように、会員を対象にどうすれば吟が上達するか、個々人の吟に合わせて丁寧にご指導いただきました。先生の言われることは分かるのですが、自分でやろうとするとなかなかできないという経験はみなさんあると思います。今回の吟詠指導では、本当に丁寧に細かい点まで教えていただき、指導いただいた方にはとても素晴らしい機会になったのではないかと思います。

　最後に本部講師吟詠としてお二人の先生方に範吟をいただき、研修会を締めくくっていただきました。素晴らしい吟に触

れることで、自分の吟を見直し、また練習に励みたいと思うと同時に、この素晴らしい吟詠という文化をより多くの皆様に伝えたいという思いを強くしました。

競吟大会に向けて練習を重ねてこられた皆様には、今後ますますのご精進・ご活躍をお祈りいたします。本年度の開催にあたっても、多くの理事・役員の方に様々なところで献身的にご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

【栄えある優勝者　喜びの声】

初級の部　優勝

岡山総楽支部　新谷　益代

私は詩吟を始めて一年になります。本来なら新人の部ですが、この度は参加者が少ないので初級の部に出場させていただきました。

詩吟を始めた当初の目的は「老化防止」。コロナで自粛し、母の介護をして見送り、ふと気づくと自分の老化現象に愕然として将来に危機感さえ感じるようになっていました。新しい趣味を始める事、老後はできるだけ趣味をたくさん持つ事が認知症の予防になるとのこと。私は幼少よりピアノを習い、高校は音楽科、大学も音大でした。歌うこと、カラオケも大好きですが、高音域で裏声になってしまうのが悩みでした。高音も地声でしっかり出せるようにYouTubeを見てボイストレーニングをやってみたりしていたところ、詩吟は裏声禁止、地声で歌うと聞き「これだ！」と思いました。

さっそく近くの公民館講座を探して参加しました。鷺照吟詠会の集いにも参加させていただき、昇段試験や競吟大会があるので練習の励みになります。このような機会を提供して下さる事に心より感謝しております。またご指導下さる諸先生方、教室の諸先輩方に感謝の意を表しまして、喜びの声と代えさせていただきます。これからも詩吟を楽しませていただき若返りたいと思います。どうぞよろしくお願いいします。

上級の部　優勝

岡山中山支部　佐藤　昌子

令和五年八月二十日、岡山県連合会競吟大会・上級の部にて優勝させていただきました。上級の部では、今期最終出吟となりますので、その区切りに名誉

ある賞をいただけたのは、この上ない喜びです。吟題は『秦淮に泊す』です。

この吟題を選んだ理由は、NHKFMラジオ『邦楽のひととき』で耳にしたからです。ラジオから流れる吟は、力強くありながら憂いを帯び情景が浮かび上がってくるのです。素敵だなと思い、自分で軽く吟じてみると、自然にスーッと入ってきたので、嬉しくなって選びました。吟法も関西吟詩と似ていましたので、違和感なく耳に入ってきたのかもしれません。ただこの詩は叙景詩ですし、厄介な吟法が多いので、競吟向きではなかったようです。私の吟力では無理な吟です。ラジオから流れていたのは少壮吟士の大山宗鵬先生でした。心地よく響いてきたのは当たり前ですよね。でも何とか吟じてみたくて一生懸命練習しました。

その甲斐あってか優勝させていただくことができ、ご褒美に本部からお越しの今井彩黎先生から吟詠研修会でのご指導をいただけました。吟士権を獲得され、愛連など数々の賞を獲得されている憧れの先生です。一言も聞き逃すまいと緊張しましたが、先生はとても優しく明るくて、コロコロコロ♪って笑われます。こんなに可愛くて笑い上戸の方だったんだ！と嬉しくなって、私もつられて笑ってしまいました。知らない間に緊張もどこかに飛んでいました。最後の独吟は楽しく吟じることができました。今井彩黎先生、ありがとうございました。いつもご熱心にご指導くださる先生方に感謝申し上げます。これからもなおいっそう精進して参ります。

師範代の部　優勝

岡山梢雲支部　虫明　隆二

この度は岡山県連合会競吟大会・師範代の部優勝という栄誉を授かりこの上ない喜びです。

来年から準師範に昇格するに当たり、師範代として最後の大会となるため、できることなら有終の美を飾りたい、そう願っていました。如何に感情を込めていくか、気持ちの良い声が出せるかを見つめながら練習して来ました。まずは、発声を楽に出せるようにするにはどうしたら良いか、当然に肺活量の問題もありますが、内臓脂肪が最近増えているので少しでも減らせるようにウォーキングを行いました。腰を捻りながら大股で歩くことでお腹周りの内臓脂肪を減らすことを目標として、毎日約八キロメートル歩いてきました。その御蔭で呼吸が楽になり、発声も長く続くようになってきました。

また、声がかすれるほどの高めの音を長く続けることで高音に余裕が生まれてきました。本当ならもっと初期の頃にこういった練習に気がつけばよかったのですが、基礎の部分の強化をやっと始めたというところです。

感情を込めるには何度も素読を行い、作者の気持ちになってみることです。そして、言葉を丁寧に発音して聞き取りやすい発音を心がけるように練習してみました。その結果、昨年よりは良い吟になったのではないかと思います。皆様にあっては安定した声を長く続けるいわゆるロングトーンを練習に取り入れたら、また良い吟の一助になるのではないかと考えます。皆様と一緒に楽しく吟詠が出来ますよう念願いたします。

準師範の部　優勝
～一歩、歩高くして光景開く～

岡山江陽支部　川根　幾恵

『太田道灌』、一昨年練習を始めた吟だ。優勝できた満足感もありながら、録音を聞いてみると少々がっかりする。「自分はこんな風に吟じていたんだな。自分の頭の中で吟じていたものと少し違うな」という感覚。でも、一昨年の録音を聞いてみると、発声や音の抑え方などずいぶん違っている。今までいろいろな先生方から発声、音、丁寧さ、安定感、そして表現の指導を受け、少しずつ自分の吟は変わってきてはいるのだ。考えてみると、「詩吟」についての理解や向き合い方も変わった。以前の自分は「自分の吟が相手にどう届いているか」はあまり意識していなかった。

詩吟は基本の音がとてもシンプルなだけに、表現の自由度が高い。その分深いといえると思う。声の質、言葉の言い方、間の取り方、止め方、様々な要因で、同じ詩が全く異なる景色になる。まさに十人十色である。美しい吟、素朴な吟、感動する吟、圧倒される吟、どれも魅力的だ。いろいろな吟を聞いて、うらやましく思うことも多い。

また、詩の理解の深さや、吟者の経験や感性によっても変わる。人の吟を聞いて自分の思い込みに気づいたり、先生方に指摘をいただいて、目から鱗が落ちる感じがしたりということもしばしばである。過去の録音を聞いて、その時指摘を受けたことが、今ならもっと理解できることもある。

一つ理解でき、一つできるようになれば、さらにその先の景色が遥かに見える。まさに「一歩、歩を高くして光景開く」感がある。私はどんな吟を目指していけばいいのか。自分の好きな吟と、自分に合う吟は違うのかもしれない。いずれにしても、私は先生方や、支部の仲間、一緒に練習している方々など、私に関わってくださる方々の指導やアドバイス、影響をこれからも素直に受け入れて練習していこうと思う。

来年、再来年の自分の吟がどうなっていくのか、楽しみにしている。先生方、みなさんこれからもよろしくお願いします。

シニアII部　優勝
岡山東風支部　難波　正敏

　このところ競吟大会には、私の好きな李白の『峨眉山月』で出吟するのですが、何箇所か発声しにくい箇所があります。中でも一箇所難しくて、特にマイクの前に立って、その句に来るとミスしてしまいトラウマになってしまいました。努力不足か、工夫が足りないのか、老化のせいか、まだまだ勉強しなければならないと思います。

　さて、新しい年は李白と並び称される杜甫の詩に挑戦してみることにしましょうか？しかし、杜甫の絶句は数が少なくて、やっぱり李白にしようかなと楽しんでいます。

　吟詠研修会では、総本部会長古田哲壮先生、指導部長藤本曙冽先生、秀詠グループ今井彩黎先生の熱心なご指導、範吟をいただきありがとうございました。

令和五年度鷺照吟詠会競吟大会報告
鷺照吟詠会事務局　河田　博行

　五月十四日に前期競吟大会、九月二十四日には後期競吟大会がそれぞれ岡山県生涯学習センターを会場に開催され、日頃の練習成果が競われました。

　今年度は会員の高齢化に対応すべく、前期競吟大会の従来の「華頂の部」に加え、後期競吟大会に「傘寿の部Ⅰ」と「傘寿の部Ⅱ」が新設されましたが、今回はこの部門への出吟者が予想外に少なく、次回からは積極的なチャレンジをお願いします。

　なお、会場の音響機器等の設備上の問題でご不便をおかけした事をお詫び申し上げます。（各大会の成績結果は別掲参照）

【栄えある優勝者　喜びの声】
華頂の部　優勝
岡山東風支部　難波　正敏

　令和五年五月、三年振りにOB会が開催され出席しましたら、私が最高齢者でした。

　歳を重ねるに連れて（八十七歳）体力が衰え、特に吟に必要な声帯、腹筋の衰えを痛感します。以前、塩路澄誠先生からご指導いただいた上達法の中で一つでも出来ることを続けて行きたいと思います。

　何と云っても「健康が一番」。高齢者は病気の早期発見、早期治療が大切です。コロナ禍と暑さ寒さで家ごもり、運動不足を解消する良い方法はありませんか？

　とりあえず目先の目標は米寿（八十八歳）まで、次は卒寿（九〇歳）まで元気で吟ずることです。健康のために吟詠、吟詠のために健康で精進したいと思います。

　講師の先生方を始め鷺照吟詠会の皆様、ご指導ご交流をお願い致します

壮年III部　優勝
岡山総楽支部　安田　雅次

　今回『黄鶴楼にて孟浩然を送る』を選び吟じましたが、思いもよらず優勝することができました。この詩は雄大な情景の中に親しい友達を見送る別れの寂しさがあります。どのようにしたら表現できるか大変苦労しました。普段大島教室では詩の中味をよく理解する勉強をしており、意解のみならず、鑑賞し、自分なりの落としどころに努めています。

　しかし、国や時代の違いもあり、やすやすと理解する事は難しいことですが、片山先生の指導もあり、少しずつではありますが、詩中に入っていくことができているのではないかと思っております。なかなか「詩吟」を楽しむまでは至っておりませんが、少しでも楽しめるよう、今後とも精進していきたいと思っております。また、吟友の

指摘により、自分の足らない部分を認識させてもらい、研究した結果、今回の結果になり、吟友には感謝しております。

上級の部　優勝
岡山梢雲支部　虫明　隆二

この度は鷺照吟詠会前期競吟大会・上級の部優勝という栄誉を授かりこの上ない喜びです。長いコロナ禍の中、練習も思うほど出来ず、声も張りがなく力で押すような吟になっていました。ただ、今回は格上の諸先輩もエントリーされていることから、優勝ということは意識せず、発声と声質にこだわって響く声を出せるように注意しながら練習してきました。どうしても上位にというプレッシャーもなく普段どおりのものが出せるかどうかということが大きかったように思います。

今年度は準師範への昇格試験を控えていることから、今まではほとんど練習してこなかった律詩を練習することで、長時間の声出しにも耐性ができてきたように感じています。絶句一吟のみの頃より流石に苦しい練習ですが、強く出すところと優しくても良いところとのメリハリも、律詩を吟じていると何となく理解が進んできました。そのあたりから一段階レベルアップに繋がるようにこれからも練習していこうと思っています。

詩吟旭教室で習う皆さんと一緒に、楽しく上達できるように私が出来たことを、皆さんの上達に役立てることが出来たらとも思っています。この度はありがとうございました

連吟の部　優勝
～連吟の楽しみ～
岡山中山支部　中尾　恵
岡山江陽支部　川根　幾恵

『大楠公』、お互いに課題としている詩、興味のある詩ということで選びました。一緒に練習する機会がある時までは独吟で練習、一緒に練習するときにも二～三回しか練習できません。私はかつて、一度この吟を連吟で挑戦したことがあります。以来「課題吟」として、自分なりに練習してきました。しかし、初めて取り組む吟を連吟の相手なしで練習するのは大変だったと思います。このように少ない練習機会の中で先生方や、周囲の人からアドバイスをいただいて、本番を迎えました。望外の結果に驚いています。先生方、周囲の方々に感謝です。

連吟は楽しい。一つの吟を二人で作り上げていく過程が何よりも楽しいと思っていました。ともに吟ずる人と少し深く知りあい、また、お互いの吟、間、呼吸、詩の感じ取り方など共有すること…とても豊かな時間だと思います。でも、今回はそうはいきませんでした。今までは二人とも自分と近しい相手との連吟でしたが、今回は一緒に練習する機会がとても限られていたからです。ありがちなことかもしれませんが、初めての経験でした。

限られた各支部の中で連吟の相手を見つけることは難しく、支部を超えて連吟をしている人が多いのかもしれません。練習の機会は少なくとも、連吟ならではの楽しさ、学びは捨てがたいものです。

合吟の部　優勝
岡山中山支部　河原　圭子

令和五年度鷺照吟詠会後期競吟大会で、中山支部（京山・芳田・一宮公民館の三教室）は合吟に出吟することになりました。メンバーは九名の女性チームです。始めの頃は、三教室のメンバーがどのように合わせて吟ずるのかと思いました。大取先生のご指導の下、三教室に関わりのある田中好子さんの吟調に合わせて、各教室で練習をしました。九名が揃って合吟したのは、当日の発声度です。メンバーは吟力のある錚々たる方達です。『花朝下澱江』の美しい柔らかい詩情が表現できたのでしょう、優勝の栄誉を頂きました。

振り返ってみますと、令和四年の合吟の優勝は岡山大学吟詩部です。令和元年、平成三十年、二十八年と長年優勝が続いています。今年も岡山大学吟詩部の合吟は一糸乱れぬ素晴らしい合吟だったと思います。少しだけ中山支部の合吟に、吟の技と味があり、評価されたのかなと思います。

合吟は独吟にない喜びがあります。今後も励んでいきたいと思います。大会を運営なさいました役員の皆様方に感謝申し上げます。

和歌の部　優勝
岡山中山支部　佐藤　昌子

令和五年九月二十四日、鷺照吟詠会後期競吟大会・和歌の部にて『銀も』で優勝させていただきました。熱心にご指導くださった先生方に厚く御礼申し上げます。

この和歌を選んだ時は、さほどの思いはなかったのですが、後にこの『銀も』は、私にとって特別な吟になったのでした。

あれは私が、全国新人中間層競吟大会に出吟した令和三年十一月の事でした。思いもかけない出来事が起こったのは、その日から遡った三箇月前のある夜の娘からの電話でした。

いつも元気な声の娘とは違い、じっと黙ったまま。心配して何度も声をかけると、やっと重い口を開いて出た言葉は、彼女の夫が余命三箇月の宣告を医師から受けたと言う、とても受け入れられない言葉でした。義理の息子はまだ四十六歳。関東在住なので、度々は会えませんが、春に家族で遊びに来た時は、いつもと変わらず元気でした。病気と言うものは、こんなにも突然で残酷なものなのでしょうか……。

なすすべもなく時は過ぎていき、大会が近づいてきました。私は欠席しようと思っていましたが、そのことを知った息子は、出てほしいとの事でしたので、出吟を決めました。もし良い吟ができたら、神様が息子の病気を治してくれるかもしれないと、奇跡を祈り。しかし、成績は芳しくはありませんでした。入賞はいただけたものの、神様に声が届くような吟ではありませんでした。失敗ばかりの情けない吟しかができませんでした。

次の日息子は旅立ちました。その時から『銀も』は私にとって特別な吟になりました。

未熟な私には『銀も』を思うようには吟じることができませんでした。少しでも良い吟になるようにがんばりました。初めて大取先生から「その声の出し方を忘れないように」とOKが出た時は嬉しかったです。

まだまだ課題満載ですが、息子に喜んでもらえるような吟を目指して、なお一層精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

最上級の部　優勝

岡山有朋支部　木谷　秀史

この度は、後期競吟大会最上級の部において名誉ある賞をいただきありがとうございました。毎年、この部門に出吟をして互いに吟を競い合うことで詩吟を楽しんだり、吟力の向上について考えたりするよい機会となっています。今後も、詩吟を披露するにあたり、審査基準を基にした得点化可能な観点である①音の安定度、②吟の流れ、③言葉の明瞭さなどを一層練磨していきたいと思っています。このことに加え、得点化が難しい観点を伸ばすことにも挑戦していきたいと思っています。それは、①自己の吟に粘り強く向き合う力（忍耐力）、②自己の吟を振り返り、課題を克服しようとする力（意欲・向上）③模範吟や詩の意味からの学びを、自己の吟に生かすこと（吟や詩との対話）です。

今後も、吟の成長、人としての成長を目指して、研鑽を積んでいきたいと思います。

支部・教室便り

誕生したばかりの教室。もう少しでやっと一歳です！

岡山中山支部
玉野田井教室　池上　茂

玉野田井教室は、去年六月に誕生したばかり。赤ちゃんに例えると、ようやくハイハイを始めたところかな（？）という感じです。

会員数も自分を入れてやっと六名の小規模教室。岡山県で一番南の玉野市で、田井市民センターという施設の小さな会議室を借りて練習しています。練習日時は、原則として毎週水曜日の夕方六時から八時です。

今まで練習してきた詩は、新Aその一（初級編）の半分を少し超えた程度でしょうか。受講生全員が初めて詩吟に触れた方ばかりでしたが、皆さん勘が良くて、詩吟独特の節調や文語調の言葉づかいにかなり馴染んで下さっているように感じます。今後は一人ひとりの吟と、丁寧に向き合っていきたいと思います。

では、教室のメンバーを、年齢順に簡単に、イニシャルでご紹介いたします。

まずMさん御夫妻。大変に仲の良いご夫婦で、物静かでにこやかなご夫君と溌剌とされたご夫人。ご高齢ではありますが、同じ建物内の卓球練習で一汗かいてから詩吟教室に来て下さる、元気一杯のお二人です。

次にFさん。仕事で日々市内各地を走り回り、以前から続けている水泳やお花などにもお忙しい中、この詩吟教室にご参加下さっているパワフルな女性です。Mさんの奥様とともに教室のムードメーカーになってくださっていて、随分と助けられています。

次はOさん。実は筆者と中学時代から（大学も含め）の同級生で、職場も数十年に及ぶ同僚だったよしみで、詩吟教室に参加してもらいました。物静かですが人柄も良く、頼りになる男性です。

しんがりはYさん。この方もかつて筆者と職場の同僚でした。その上、長年にわたる飲み友達でもあります。そのよしみで、酒場で詩吟教室への参加を頼んだ次第です。教室最年少ゆえの遠慮からか、これまで教室内ではあまり発言をされていませんが、温かいハートを秘めた男性です。

以上、ごく簡単に私達の教室を紹介させて頂きました。教室みんなで詩吟を楽しめるよう努めて行きたいと思っていますので、どうか温かく見守って下さるよう、お願い致します。

自由投稿

新人の部で奨励賞をいただいて

岡山岡南支部　立木　南

岡山県天神山文化プラザでの岡山県連合会競吟大会において、新人の部で奨励賞をいただきありがとうございました。

私が「詩吟」を聞くようになったきっかけは、主人が主治医から、声を出す事は健康に良いと勧められ、鷺照吟詠会に入会し、自宅で練習をしているのを聞いていたことからです。

その頃は、「詩吟」は、独特の節回し、旋律、不思議な曲だと思う程度でした。それから主人が亡くなり、坂本先生より入会を勧められましたが、漢詩の意味は難しく、あまり乗り気ではありませんでしたが、健康維持にと思い、令和四年四月一日に入会させていただきました。

いざ自分で吟じてみると、大きな声も出ず、音符、吟法を覚えなくてはならず、そして、詩の意味、作者の思いを理解し、強弱をつけ、詩を吟じなければならないため、あまりにも奥深く、私には無理かと思うことしきりでしたが、坂本先生の熱心なご指導、そして諸先輩のご指導を受けながら、令和五年八月に開催された、岡山県連合会競吟大会・新人の部に出場させていただきました。

これからも、坂本先生のご指導、諸先輩の吟を聞きながら精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

感謝

関西大学吟詩部創立九〇周年記念吟詠発表会に参加して

岡山中山支部　河田　博行

昨秋十一月四日、母校関西大学にて開催された「吟詩部創立九〇周年・再発足七〇周年記念吟詠発表会」に参加した小生は、四名の現役部員の元気な吟を聴き剣舞を見ながら、この三年間の出来事を回想していました。

令和二年のOB会総会で、現役部員増強策が検討され、塩路晴彦君が企画・制作したAR（Augmented Reality）パンフレットによる部員勧誘の支援策が承認された矢先、新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令。大学構内への立ち入りが禁止され、最後に残っていた四回生二名も、新入部員勧誘どころか部活動も出来ないまま卒業。顧問教授を通じての大学との折衝で、廃部という最悪の危機は免れたものの、令和三年より休部という状況に陥りました。我々OBとしては、このままでは早晩廃部になるのでは？と気持ちの休まる時はありませんでした。

学生からの問合せがあった場合に備えて、学生課にARパンフレットを置いてもらい、師範の連絡先を伝えておいて一年余り過ぎた令和四年の六月、「詩吟に興味を持っている学生がいる」との連絡が大学から入り、十月に谷澤OB会長と師範二名が大学を訪れ、学生課を交えて二人の女子学生と面談。二人共詩吟に対する関心が強く、早速週一回の練習が始まり、翌年一月には「学生達の意欲とOBの皆さんの強い熱意とバックアップ体制を確認出来たので、春の新入部員勧誘活動に間に合うように」として、大学側から「復部」の許可が下りたのでした。

思い起こせば昨年四月、OB会総会の席に一人の男子学生が来ていました。その時点では女子部員三名だったのですが、「今日の練習中に部室に顔を出したので連れて来た」（師範の弁）「夕方からメシを喰わせてやるからついて来い！と言われて何もわからないまま連れて来られた」（学生の弁）そうでした。

総会後の懇親会の席で、小生が「何故部室に顔を出したのか？」と彼（進藤君）に尋ねると、「高校生の頃から我流で木刀を振り回しており、剣舞や居合に興味があったので…」との事。

そこで三代上の剣舞師範M先輩の席に連れて行き、二人で入部の説得に努めた（彼に言わせると、入部を迫られ確約させられた？）のでした。

そして、彼を加えた四名の現役部員のお陰で、あきらめかけていた記念大会を開催する事が出来た…そう思うと熱いものが込み上げて来ました。伝統ある吟詩部の灯を、決して消してはならない、参加した歴代OB全員がさらにその思いを強くした大会でした。

総本部古田会長のご来駕や、明治大学OB・岡山大学吟詩部・明治大学詩吟研究会等の皆様のご賛助をいただき、ささやかながら九〇周年の節目に相応しい意義ある大会となりました事をご報告し、皆様方のご支援に改めまして感謝申し上げます。

【追記】記念大会終了後の二次会に同席していた六年後輩の稲井英人君が岡山在住という事を知り、詩吟の再開を勧め、一宮教室のメンバーに加わってくれました事をご報告致します。

（敬称を省き学生時代に戻っての"君"づけでの表現をお許し願います）

（成績詳細は別掲記事に）

■令和五年度 鷺照吟詠会 前期競吟大会

令和五年五月十四日（日）
岡山県生涯学習センター

新人の部
奨励賞 新谷 益代（総楽）
奨励賞 布 こころ（岡大）

初段・二段の部
優勝 本郷田鶴子（中山）
準優勝 貝原 亜海（岡大）
三位 葉廣 千夏（岡大）

三段の部
優勝 中尾 恵（中山）
準優勝 青木 朝紀（岡南）
三位 小川 泰昭（中山）

華頂の部
優勝 難波 正敏（東風）
準優勝 林原 茂樹（総楽）
三位 内座 弘子（岡南）
四位 北村 恭子（岡南）
入賞 福森美津子（中山）

壮年Ⅰ部
優勝 片岡紀久夫（岡南）
準優勝 三宅 弘子（岡南）

壮年Ⅱ部
優勝 中尾 栄子（吉照）
準優勝 高塚 貫一（総楽）
三位 田中 啓子（東風）

壮年Ⅲ部
優勝 安田 雅次（総楽）
準優勝 剣持 和江（総楽）

上級の部
優勝 虫明 隆二（梢雲）
準優勝 藤原美喜夫（江陽）
三位 佐藤 昌子（中山）
奨励賞 城本亜由美（岡大）
※上級の部の奨励賞は、順位とは無関係

■令和五年度 鷺照吟詠会 後期競吟大会

令和五年九月二十四日（日）
岡山県生涯学習センター

傘寿の部Ⅰ
奨励賞 安井 一雄（東風）

傘寿の部Ⅱ
優勝 難波 正敏（東風）
入賞 嶽 惣爾（中山）

連吟の部
優勝 中尾 恵（中山）
川根 幾恵（江陽）
準優勝 花房 早苗（梢雲）
剣持 和江（総楽）
三位 藤原美喜夫（江陽）
難波 正敏（東風）
四位 青木 朝紀（岡南）
棚田 公夫（瀬戸）
五位 田中 好子（中山）
本郷田鶴子（中山）
六位 安東 正二（中山）
小川 泰昭（中山）

合吟の部
優勝 田中 好子（中山）
福森美津子（中山）
河原 圭子（中山）
佐藤 昌子（中山）
中尾 恵（中山）
本郷田鶴子（中山）
内座由紀葉（岡南）
川根 幾恵（江陽）
鈴木 一子（江陽）
準優勝 内田 大葵（岡大）
前田 鉄平（岡大）
小渡 航輝（岡大）
岡本 和航（岡大）
西山 宗太（岡大）
芳田 健命（岡大）

和歌の部
優勝 佐藤 昌子（中山）
準優勝 池上 茂（中山）
三位 虫明 隆二（梢雲）
四位 中尾 恵（中山）
五位 川根 幾恵（江陽）
六位 林原 茂樹（総楽）
入賞 池上美枝子（総楽）
入賞 片岡紀久夫（岡南）

俳句の部
優勝 中尾 栄子（吉照）

近代詩の部
優勝 新谷 益代（総楽）
準優勝 田中 好子（中山）

最上級の部
優勝 木谷 秀史（有朋）
準優勝 池上 茂（中山）
三位 空 富美子（総楽）
四位 田辺 博通（総楽）

■令和五年度 岡山県連合会 競吟大会

令和五年八月二十日（日）
岡山県天神山文化プラザ

新人の部
奨励賞 立木 南（岡南）

初級の部
優勝 新谷 益代（総楽）
準優勝 本郷田鶴子（中山）
三位 片岡紀久夫（岡南）

上級の部
優勝 佐藤 昌子（中山）
準優勝 中尾 恵（中山）
三位 青木 朝紀（岡南）
四位 佐藤真知子（総楽）

師範代の部
優勝 虫明 隆二（梢雲）
準優勝 棚田 公夫（瀬戸）

準師範の部
優勝 川根 幾恵（江陽）
準優勝 藤原美喜夫（江陽）

和歌の部
優勝 中尾 恵（中山）
準優勝 新谷 益代（総楽）
三位 中尾 栄子（吉照）

シニアⅠ部
優勝 北村 恭子（岡南）
準優勝 浅野 好香（岡南）

シニアⅡ部
優勝 難波 正敏（東風）

吟士権の部
優勝 中山 理恵（梢雲）
準優勝 内座由紀葉（岡南）
三位 木谷 秀史（有朋）
四位 坂本 朋義（岡南）
五位 岡田 正和（総楽）
六位 剣持 和江（総楽）
入賞 内田 順子（皐月）

■第六十二回 白さぎ吟詠の集い競吟大会

令和五年四月一日（土）
尼崎エーリック

三段の部
準優勝 中尾 恵（中山）
三位 青木 朝紀（岡南）

上級の部
準優勝 川根 幾恵（江陽）
三位 佐藤 昌子（中山）

最上級の部
優勝 岡田 正和（総楽）
準優勝 内座由紀葉（岡南）

四位　鈴木　一子（江陽）
入賞　剣持　和江（総楽）

傘寿の部Ⅱ

四位　棚田　公夫（瀬戸）

合吟の部

優勝　川根　幾恵（江陽）
剣持　和江（総楽）
佐藤　昌子（中山）
鈴木　一子（江陽）
空　富美子（総楽）
内座由紀葉（岡南）
中尾　惠（中山）
中山　理恵（梢雲）
花房　早苗（梢雲）

■総本部　新人中間層競吟大会

令和五年十一月十二日（日）
大東市立市民会館
（キラリエホール）

和歌の部

準優勝　中尾　惠（中山）
三位　新谷　益代（総楽）

新人の部

準優勝　新谷　益代（総楽）

上級の部

入賞　佐藤　昌子（中山）
入賞　中尾　惠（中山）

シニアの部

入賞　北村　恭子（岡南）

■総本部　全国準師範・師範代競吟大会　全国指導者級　吟士権者決定吟詩大会

令和五年十二月十日（日）
高槻現代劇場

師範代の部

入賞　虫明　隆二（梢雲）
入賞　棚田　公夫（瀬戸）

準師範の部

三位　川根　幾恵（江陽）

師範以上（吟士権）の部

優勝　木谷　秀史（有朋）
三位　内座由紀葉（岡南）
入賞　中山　理恵（梢雲）

■第五〇回ポリドール　全国吟詠コンクール関西地区予選

令和五年六月四日（日）
大東市立市民会館

和歌の部

優勝　内座由紀葉（岡南）

青年の部

優秀賞　虫明　隆二（梢雲）

壮年の部

優勝　池上　茂（中山）
入賞　佐藤　昌子（中山）

入賞　内田　順子（皐月）
入賞　青木　耕二（岡南）
優秀賞　中尾　惠（中山）

■第五〇回ポリドール　全国吟詠コンクール決選大会

令和五年十月九日（祝）
大東市立市民会館

和歌・短歌の部

入賞　内座由紀葉（岡南）

壮年の部

入賞　池上　茂（中山）
奨励賞　佐藤　昌子（中山）

■第五〇回クラウン　全国吟詠コンクール決勝大会

令和五年十月二十二日（日）
日本教育会館一ツ橋ホール

漢詩の部

入賞　内座由紀葉（岡南）

令和五年度　慶祝・吟功賞・昇格・昇段

■慶寿祝

傘寿　中尾　和子（総楽）
太田　俊慧（梢雲）
喜寿　助田　通範（総楽）
山根　通嘯（総楽）
池上　美菖（総楽）

■特別昇格

高師範　河原　瓊照（中山）

■昇格

師範　池下　緗煌（岡南）
準師範　安倉　踊照（有朋）
虫明　隆慧（梢雲）
棚田　徹照（瀬戸）
師範代　佐藤　鷲華（中山）
竹原　羊慧（梢雲）
谷本　修一（皐月）

■昇段

十段　北　萱照（皐月）
八段　福森　松声（中山）
田中　咲声（中山）
池上　醒照（中山）
難波　富嶽（東風）
七段　藤原　瞳桂（梢雲）
今井　瑞華（梢雲）
六段　棚田　徹照（瀬戸）
川根　溂照（江陽）
塚本　檗慧（梢雲）
塚本　里慧（梢雲）
虫明　隆慧（梢雲）
五段　大野　典空（総楽）
田中　啓丘（東風）
安井　一丘（東風）
佐藤　鷲華（中山）
竹原　羊慧（梢雲）
四段　本田　雄也（岡大）
前田　貴一（岡大）
川田　萩南（総楽）
荒木　耀楓（梢雲）
川村　耀梢（梢雲）
佐藤　真通（総楽）
小川　鷲泰（中山）
中尾　鷲恵（中山）
藤田　瞳慧（梢雲）
三段　葉廣　千夏（岡大）
三宅　緗弘（岡南）
本郷　鷲蒼（中山）
本郷　鷲鶴（中山）
中村　緗友（岡南）
二段　貝原　亜海（岡大）
清水　寛太（岡大）
土持　弘（総楽）
吉田　雅章（総楽）
片岡紀久夫（岡南）
小宮　圭人（岡大）
宇都宮判代（総楽）
初段　上月　将司（岡大）
笹木　大輔（岡大）
新谷　益代（総楽）

会員増員表彰

個人表彰

木谷　晛秀（岡山有朋支部）
坂本　緗照（岡山岡南支部）

公認　鷺照吟詠会　教場一覧

令和６年４月１日現在

市町村	支部名	教場名（教室名）	場　　所	開催曜日・時間	開催回数（月）	講師（問合先）
岡山市	岡山大学吟詩部	岡山大学吟詩部	岡山大学新BOX棟 （岡山市北区津島中1-1-1）	毎週　水・土曜日 12：30 ～ 16：00	８回	木谷睨秀
	岡山岡南	楓教室	カラオケ　ハニービー岡南店 （岡山市南区並木町2-14-15）	不定期		武川琥照
		岡南教室	岡山市立岡南公民館 （岡山市南区若葉町22-16）	第１・２・３　火曜日 13：00 ～ 15：00	３回	坂本綳照
		岡南第二教室	古民家ハウス （岡山市北区十日市東町5-6）	毎週　火曜日 13：00 ～ 15：00	４回	青木琥真
	岡山梢雲	旭教室	岡山市立旭公民館 （岡山北区広瀬町3-26）	第２・４　木曜日 ９：30 ～ 11：30	２回	中山瞳伸
		高島公民館教室	岡山市立高島公民館 （岡山市中区国府市場99-5）	第１・３　木曜日 13：00 ～ 15：00	２回	中山瞳伸
		平野教室	北平野集会場 （岡山市北区平野1014-5）	第２・４　水曜日 14：00 ～ 16：00	２回	深井耀照
	岡山瀬戸	瀬戸教室	菊山公会堂 （岡山市東区瀬戸町菊山50）	第１・３　木曜日 19：00 ～ 21：00	２回	大取鷲照
	岡山総楽	庭瀬教室	岡山市立吉備公民館 （岡山市北区庭瀬416）	第２・４　日曜日 15：00 ～ 17：00	２回	片山鷺丘
	岡山中山	一宮公民館教室	岡山市立一宮公民館 （岡山市北区一宮638-1）	毎週　木曜日 19：00 ～ 21：00	３～４回	大取鷲照
		京山公民館教室（夜）	岡山市立京山公民館 （岡山市北区伊島町2-3-38）	第１・３　金曜日 19：00 ～ 20：30	２回	大取鷲照
		京山公民館教室（昼）	岡山市立京山公民館 （岡山市北区伊島町2-9-38）	隔週　金曜日 13：00 ～ 15：00	２回	田中咲声
		岡輝公民館教室	岡山市立岡輝公民館 （岡山市北区旭本町1-80）	第２・４　土曜日 10：00 ～ 12：00	２回	河田轟声
		芳田公民館教室	岡山市芳田公民館 （岡山市南区西市96-1）	第１・３　土曜日 10：00 ～ 12：00	２回	大取鷲照
玉野市		玉野田井教室	玉野市田井市民センター 岡山県玉野市田井4-10-5	毎週　水曜日 18：00 ～ 20：00	４回	池上醒照
岡山市		御津公民館教室	岡山市御津公民館 岡山市北区御津宇垣1629	第２・４　火曜日 13：00 ～ 15：00	２回	大取鷲照
	岡山東風	東風教室	南方コミュニティハウス （岡山市北区南方1-3-15）	金曜日 13：30 ～ 15：30	３回	片山鷺丘
	岡山有朋	公民館教室	岡山市立操山公民館 （岡山市中区国富3-9-12）	第２・４　土曜日 10：00 ～ 12：00	２回	多田葦照
	岡山皐月	さつき教室	花　詠　庵 （岡山市中区湊238-7）	第１・３火曜日　第２・４木曜日 10：00 ～ 12：00	各２回	内田菖照
			花　詠　庵 （岡山市中区湊238-7）	第１　土曜日 10：00 ～ 12：00	１回	内田菖照
赤磐市	岡山江陽	山陽教室	赤磐市立中央公民館 （赤磐市下市337）	第１・３　土曜日 10：00 ～ 12：00	２回	鈴木厳翔
吉備中央町	岡 山 北	納地公民館教室	吉備中央町立納地公民館 （加賀郡吉備中央町納地1266-2）	第２・４　火曜日 13：00 ～ 15：00	２回	伊賀郎照
	岡山吉照	吉川公民館教室	吉備中央町立吉川公民館 （加賀郡吉備中央町吉川3930-8）	第１・３　木曜日 20：00 ～ 22：00	２回	新池亥照
総社市	岡山総楽	総社教室	中央公民館 （総社市中央３丁目1-102）	毎週　木曜日 ９：30 ～ 11：30	４回	田辺通照
倉敷市		大島教室	大島会館 （倉敷市大島532-2）	毎週　火曜日 19：00 ～ 21：00	４回	片山鷺丘
兵庫県 神戸市		神戸教室	リモートにて	第２・４　水曜日 10：00 ～ 12：00	２回	田辺通照
九州 鹿児島市		九州教室	トライ社別館 （鹿児島市南林寺町12-6）	月　10：00 ～ 12：30 金　18：30 ～ 21：00	７回	濱田通南

令和６年度　鷺照吟詠会 年間事業計画

月	鷺照吟詠会				白鷺連合会		関西吟詩総本部		岡山県連合会	
	行　事		研修会							
６/	10	⑦常任理事会	10	⑥研修会	16	常任理事会⑦	9	正副会		
		（岡山県生涯学習センター）		（師範代）			16	正副・理事会		
３		総会					17	吟詠普及（西中国）		
	24	（岡山県生涯学習センター）	24	審査員研修会					24	総会
										（岡山県生涯学習センター）
	14	①常任理事会			6	競吟大会	5	正副会		
4		（岡山県生涯学習センター）				（エーリック）				
		会報発行			20	常任理事会①	20	正副・理事会		
	19	前期競吟大会	19	①研修会	4	総会	11	元老相談役参与正副会		
5		（岡山県天神山文化プラザ）			〃	常任理事会②				
	〃	②常任理事会					18	正副・理事会		
					8	常任理事会③	1	総会・正副会		
6							8	正副・理事会		
							9	特別研修会		
							16	昇格試験（地方）		
	14	③常任理事会	14	②研修会			6	正副会		
7		（岡山県生涯学習センター）		（師範）						
	〃	合同昇段試験					21	昇格試験		
								（師代・準師・師範）		
					4	青年部＆交流会	3	正副会		
8					10	常任理事会④	10	正副・理事会		
	25	④常任理事会					18	吟詠普及研修会（岡山）	18	競吟大会
		（岡山県生涯学習センター）								（岡山県天神山文化プラザ）
							7	正副会		
9							8	碑前際 研修会		
	22	後期競吟大会	22	③研修会						
		（岡山県天神山文化プラザ）								
							5	正副会		
10					12	常任理事会⑤	12	正副・理事会		
	27	⑤常任理事会					14	全国青年部大会		
		（岡山県生涯学習センター）								
							2	正副会		
11							10	新人･中間層大会		
							17	研修会		
								（師範・準師範・師範代）		
	1	集い	1	④研修会			7	正副会		
12		（岡山県天神山文化プラザ）					8	師範代・準師範・吟士権者大会		
					14	常任理事会⑥	14	正副・理事会		
７/					12	新年互礼会	11	正副会		
	19	初吟会			〃	常任理事会⑦	13	代議員会議・新春吟詠大会		
1							15	代議員選挙公示		
							18	正副・理事会		
	9	⑥常任理事会	9	⑤研修会			1	吟道大学		
2	16	（岡山県生涯学習センター）		（準師範）			～2			
		チャリティーコンサート					8	正副会		
	9	⑦常任理事会	9	⑥研修会			1	正副会		
3		（岡山県生涯学習センター）		（師範代）	15	常任理事会⑧	15	正副・理事会		
	23	総会							23	総会
		（岡山県生涯学習センター）								（岡山県生涯学習センター）

編集後記

今号は、総本部全国指導者級吟士権者決定吟詩大会で、吟士権を獲得された木谷先生をはじめ、各種の競吟大会に参加された皆様が、華々しい活躍をされたうえ、総本部九〇周年記念大会など周年大会も重なり、盛り沢山の内容に仕上がりました。原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

初めて、手書き原稿を音声入力でデータ変換してみたり、足りない写真データをLINEで送ってもらったりしているうちに、三〇年ほど前にも、手書き原稿と割付作業で苦労して編集作業していた頃を懐かしく思い出し、思わず「ありがたいな」という言葉が溢れました。IT革命の恩恵を存分に感じています。

近年、AI（人工知能）がめざましい進化を遂げています。会報の編集や校正は、やがて私たちの負担が大幅に軽減されることになるでしょうし、詩吟においても、AIで音程のずれを確認しながら練習したり、競吟大会の審査もAIが担ったりすることになるかもしれません。そういった時代に、人間らしい感情表現や感性がどこまで通用するか真価が問われると思います。

（木南　春樹）